

## 新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。  
 平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。  
 この度、新規項目を登録いたしましたので、ご案内いたします。  
 弊社におきましてはご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、  
 今後共引き続きお引き立ての程お願い申し上げます。 敬白

\*\*\*\*\* 記 \*\*\*\*\*

### ■新規受託項目

項目 No.	34352	34354
検査項目名	ペランパネル <sup>※1</sup>	ラコサミド <sup>※2</sup>
検体量/保存方法	血清 0.3mL/凍結	
容器	T2(分離剤入り採血管不可)	
検査方法	LC-MS/MS 法	
有効治療濃度	(設定なし)ng/mL	(設定なし)μg/mL
管理料	各 470 点 (B001 特定疾患治療管理料 特定薬剤治療管理料)	
所要日数	5~7 日	
主な商品名	フィコンパ <sup>®</sup> 錠	ビムパット <sup>®</sup> 錠

- ※1. 本剤は選択的 AMPA ( $\alpha$ -amino-3-hydroxy-5-methyl-4-isoxazolepropionic acid) 型グルタミン酸受容体 (AMPA 受容体) 拮抗剤であり、既存の抗てんかん薬とは異なる作用機序を持つため、効果が乏しい症例での有効性が期待されています。  
 グルタミン酸は中枢神経シナプスにおいて主要な神経伝達物質の一つであり、その受容体にはいくつかのタイプが存在しますが、AMPA 型受容体はイオンチャンネル型グルタミン酸受容体としてシナプス後膜に主として存在します。  
 AMPA 受容体はてんかん波や神経細胞間のシグナル伝達などに大きな役割を果たしていると考えられていますが、本剤はそれらに拮抗し抑制することにより抗てんかん作用を発揮するため、既存の抗てんかん薬の作用機序である神経興奮性抑制および抑制系賦活化効果と異なる新しいメカニズムにより効果を発揮する唯一の薬剤です。  
 なお、本剤は「他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作（二次性全般化発作）、強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法」において効果・効能が認められています。  
 軽度および中等度の肝機能障害のある患者ではクリアランス機能の低下により代謝が延長する可能性が示唆されておりますので、血中濃度の測定によるモニタリングは有用と考えられています。
- ※2. わが国におけるてんかんの有病率は人口 1,000 人当たり 4~9 人（人口の 0.4~0.9%）とされ、総数約 100 万人の患者が存在する、最も発生頻度の高い神経疾患です。一般にてんかん患者は発作の抑制のため長期の薬物療法を必要としますが、うち 20%程度の患者はコントロールが不良で難治性てんかんと呼ばれています。  
 ラコサミドは既存の薬物とは異なる作用機序を持つ抗てんかん薬であり、電位依存性ナトリウムチャンネルの緩徐な不活性化を選択的に促進することにより過興奮状態にある神経細胞膜を安定化させ、抗けいれん作用を発揮します。そのため、他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の、部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する抗てんかん薬との併用療法に適応となります。  
 ラコサミドを経口投与すると血中濃度が 0.5~4 時間でピークに達し、その血中半減期は約 14 時間です。しかしながら、肝機能障害患者では血中半減期が延長し、またクレアチニンクリアランスが 30mL/min 以下の重度および末期腎機能障害患者も未変化体の排泄遅延に伴ってラコサミドの血中濃度が上昇する可能性があることから、投与量・投与間隔の調節など慎重な管理を要します。服薬コンプライアンスの確認、ならびに副作用回避のためにもラコサミド投与中の血中濃度測定は重要と考えられます。

### ■実施日

平成 28 年 9 月 20 日（火）受付分より